

## 留学体験レポート

国際学部 2年 角田絵理奈

私は約4か月間アメリカのミズーリ州の **Northwest Missouri State University** へ留学しました。この4か月間は長いと思っていましたが、毎日が濃くてあっという間に過ぎていきました。私の人生の中でとても重要で貴重な経験になったと思います。私は高校生の頃から海外へ留学することが夢だったため、この派遣留学への参加をしたいと両親に話すと「新しい地でいろんなことを学んでおいで」と賛成してくれてとても感謝しています。

アメリカでの生活は毎日が刺激的で、充実したものでした。授業には日本人だけではなく、中国人・韓国人・サウジアラビア人がいました。授業中に、一つの教室で4か国の文化の違いについて比較したのはとても良い経験でした。授業はすべて英語で、宿題も毎日大量に出されます。特に私が苦手だったのが **article report** という、一つの記事を読んで要約をして自分の意見を書くというものでした。この宿題は毎週末に出されます。とても時間のかかる作業で大変でしたが、最後の方には英文を読む力がつき、自分の意見を英語ですらすらと述べることができました。

授業の一つに現地の学生と週2回一時間会話をするというものがありました。私の担当の **Madeline** という学生はとても明るくておしゃべりな人でした。最初は彼女の話す英語が早すぎて何を言っているのか分からず、この時間が憂鬱だと思ふときもありました。ですが、回数を重ねていくうちに彼女の英語を理解できるようになり、楽しくなりました。会話をするだけでなく、折り紙を教えたり一緒に箸を使ってご飯を食べて仲良くなることができました。**Madeline** はとても親切で、普段の生活で困ったことに相談に乗ってくれたり、宿題に協力してくれました。時間外にも買い物や彼女のアパートへ遊びに行ったりもしました。今でも連絡を頻繁に取り合う仲になれました。

私のルームメイトは **Laura** というアメリカ人でした。年齢は私の方が一つ上でしたがとても明るくて面白くて親切にしてもらいました。同じ部屋で生活をするということでお互いが快適に過ごせるようにたくさんの配慮をしてくれました。二人の間で「帰りが遅くなる時は連絡をする」「部屋に友達を呼ぶ際には許可を得る」など約束を決めたのもより良い共同生活への元となりました。**Laura** とは日本のことやお互いの家族のこと等様々なことを話しました。時には宿題に協力してくれたこともありました。私の一番印象に残っている **Thanks giving day** という祝日には彼女の家へ滞在しました。**Thanks giving** の定番料理であるターキーなどを食べ、彼女の家族と楽しい日々を送りました。彼女の両親はとても優しく、日本に興味を持っていたため、色んな文化の違いについて話したり折り紙や漢字の書き方を教えました。

ここには書ききれないほどたくさんの、アメリカでしかできない経験をしました。あっという間の4か月間でしたが本当に大きな4か月間でした。また機会があればミズーリに行きたいと考えています。